

東大駒場地区保育所・こまばっこの会

保育所設置主体のNPO法人への移行について

NPO法人東大駒場保育の会

理事長 本田直文

緑が目に染みる季節となりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。保育所はいま年度初めですが、ことのほか賑やかで30人の子供達の元気な声であふれています。

さて、昨年から今年にかけ、保育所は大きな発展の節目を迎えています。開設以来三十年余、みんなで支えてきた保育所ですが、ここに来て学部の認知が得られ、園舎の新築にも道が開けました。

私達の粘り強い取り組みがこのような形で実を結んだ事を喜びたいと思います。また、この問題に理解を示された学部関係者の方々に敬意を表したいと思います。

これを受け、私達はNPO法人東大駒場保育の会を設立し、保育所の設置主体を教養学部教職員組合からこの法人に移しました。これにより保育所は社会的にも認知され、また法的にも当事者能力を持つ存在となりました。以下にその経緯をご報告致します。

これまで保育所は、学部との関係では黙認、本郷との関係では存在しないものとされてきました。02年6月学内利用者から保育所の認知と耐震補強の緊要性を訴える要望書が出され、それを機に事態が大きく動くことになりました。

古田学部長（当時）がこの要望を正面から受け止め、保育所を学部の将来計画に位置付け（認知）た上で耐震補強には建て替えて対処したいとの意向を表明されました。本郷を含めた事務サイドの理解も得られ、最終的には11月21日の学部教授会でこの方針が了承されました。

学部の認知により社会的認知（法人化）への道が開けましたので、NPO法人を立ち上げてこれを保育所の設置主体とすることとし、急遽申請書類を準備し、02年末都に提出しました。03年3月都から設立認証書が交付され、法人登記を経て4月2日NPO法人東大駒場保育の会設立の運びとなりました。

この法人は、定款でその目的を「地域住民を対象に、その乳幼児の保育および育児相談等、子育て支援に関する事業を行い、もって地域における福祉増進と男女共同参画社会の形成促進に寄与すること」とし、事業として東大駒場地区保育所およびこまばっこの会の設置・運営を掲げています。これにより両保育所はこの法人が行う事業として位置付けられる事となった次第です。

これを機に、地域の保育センターとしての役割も担う保育所として、大学と地域社会とのより良い関係作りにも一層力を注いでゆきたいと念じています。

(2003.5.20)